

非血縁者間骨髄採取認定施設
採 取 責 任 医 師 各 位

公益財団法人 日本骨髄バンク
ドナー安全委員会

自己血が冷蔵状態で凝集があった事例について

平素より骨髄バンク事業の推進に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

このたび、骨髄採取術前日に自己血 2 バッグに凝集が確認され、寒冷凝集素症、発作性寒冷ヘモグロビン尿症などを疑い中止された事例が報告されました。

この報告を受け、本委員会で検討した結果、事例の共有、また自己血の凝集が採取直前に発見されたということであり、下記対応について通知することといたしました。

記

1. 概要（当該施設からの報告書より）

入院時、自己血が冷蔵状態で 2 バッグとも凝集しており、明らかな寒冷凝集素と思われる反応があり、不規則抗体陽性であった。

自己血は室温に戻すと肉眼的には凝集は消失、血漿クリアでスメア標本では赤血球形態は保たれていることから、寒冷凝集素症、発作性寒冷ヘモグロビン尿症などを疑い、採取中止とした。また、術前検査では、冷式抗体を疑わせる非特異的な反応(1+)あり、弱い非特異的反応、冷式抗体の存在が疑われたが、抗体パネルスクリーニング陰性であったため、通常のコロスマッチの時と同様に臨床的意義のある抗体はないと勘違いし、不規則抗体陰性と結果報告した。今後このような事態が生じないよう輸血部と下記の 2 点について再確認した。

①強弱にかかわらず寒冷凝集素と思われる反応も必ず報告すること。

②自己血は保存時のみ凝血など目視確認はされていたが、後日、凝血・色調などの目視確認もすること。

2. 対応

このたびの症例を受け、保存自己血は定期的に観察（目視による凝血の有無、色調など）することが望ましい。

以上